

令和元年度 奈良県立橿原考古学研究所 アトリウム展
アンコール遺跡の保存と修復

会期：令和元年9月24日～10月31日



アンコール遺跡は1992年にユネスコの世界遺産リストに登録されると同時に「危険遺産」として登録され、その保存と修復は緊急の課題になりました。現在も日本をはじめとした各国が協力し、修復に取り組んでいます。日本政府とユネスコ、アプサラ機構（カンボジア国家機関）は日本-アプサラアンコール遺跡救済チームを結成し、現在バイヨン寺院の修復を行っています。

本展示では、バイヨン寺院の劣化の原因と対策について調査研究の最新の成果を示すと共に、寺院の調査と修復の内容を紹介します。

共催：奈良県立橿原考古学研究所、日本-APSARA アンコール遺跡救済チーム、筑波大学、東北芸術工科大学

公開講演会
「遺跡保存のこれからを考える」

日時：令和元年10月6日（日） 13:30～16:30

場所：奈良県立橿原考古学研究所 講堂

（アクセス：近鉄畷傍御陵前駅下車西南へ徒歩5分）

プログラム：

1. 13:30-13:45 「バイヨン寺院の保存と科学研究」
河崎衣美（奈良県立橿原考古学研究所主任研究員）
2. 13:55-14:45 「アンコール遺跡の修復」
中川武（早稲田大学名誉教授）
3. 14:55-15:45 「世界石造文化遺産と保存科学」
澤田正昭（東北芸術工科大学教授）
4. 16:00-16:30 総合討議

本展示の一部はJSPS科研費（19251001、25257303、16K16339、17H01628）の助成を受けた研究の成果です。